

草地に侵入する雑草「エゾノギシギシ」の駆除方法について

大村 誠・志垣 啓・城 秀信¹⁾(熊本県農業研究センター草地畜産研究所・¹⁾熊本県農業研究センター農産園芸研究所)Makoto OMURA, Hiraku SIGAKI and Hidenobu JOU :
Extermination of Bitter-dock in Improved Grassland

改良草地を荒廃させる雑草の中でも特にエゾノギシギシは、繁殖力が旺盛であり、根絶が非常に困難である。

平成5～7年度にかけて雑草防除マニュアルの作成を目的に、不良雑草駆除試験を実施したところであるが、その試験で得られたデータをもとに、実際の牧野組合の草地においてその成果を実証した。

1. 試験方法

供試薬剤の特性を第1表に示した。

- 1) 実施場所：阿蘇郡阿蘇町端辺 狩尾牧場
- 2) 供試薬剤：DPX区…DPX水和剤 5g/10a
DPX + MDBA区…DPX水和剤 5g/10a + MDBA液剤 100ml/10a
- 3) 希釈倍数：100リットル/10a
- 4) 散布時期：1997年6月20日 (DPX水和剤)
1997年10月30日 (MDBA液剤)
- 5) 散布面積：各区 1ha
- 6) 調査項目：エゾノギシギシの占有率 (株数)

第1表 供試薬剤の特性

| 薬剤名 | DPX水和剤 | MDBA液剤 |
|------|-----------------|-----------|
| 作用機作 | 必須アミノ酸 生合成阻害 | オーキシン活性阻害 |
| 作用特性 | 非ホルモン | ホルモン |
| — | 接触型 | 吸収移行型 |
| 選択性 | 広葉 スズメノテッポウ | 広葉 |
| 処理法 | 茎葉・土壌 | 茎葉・土壌 |
| 毒性 | 普通物A類 | 普通物A類 |
| 農薬登録 | 有 | 有 |

2. 結果および考察

1) エゾノギシギシの株数の変化

エゾノギシギシの株数の変化および枯死率を第2表、第3表に示した。

DPX区は、一番草刈り取り後14日目に散布した。散布時のエゾノギシギシは生育期で葉部が広がっている状態であった。

散布時点では39.7株 (10㎡あたり) であり、散布1ヶ月後の調査では、1.95株・枯死率95% (散布時比較「以下」枯死率散布時比較) と高い効果を示した。

散布3ヶ月後の調査では7.6株・枯死率81%と再生株の発生が見られた。

DPX区 + MDBA区は、MDBA液剤散布 (DPX水和

剤散布後4ヶ月後) の調査で9.7株であったのが、散布後1ヶ月後の調査では0.2株 (枯死率99.7%) と高い効果を示した。

2) 経済性

DPX水和剤が2,161円 (10g)、MDBA液剤が10,800円 (1リットル) で、10aあたりに換算するとDPX区が1,081円、DPX + MDBA区が2,161円と高価であるので、エゾノギシギシが繁茂している場所への部分処理等を併用する。

3. 留意点

1) 両薬剤ともイネ科への選択的薬剤なのでクローバ等へのマメ科牧草には葉害がでるおそれがある。

2) 両薬剤ともエゾノギシギシの葉から主に吸収されるので、葉が広がっている時の散布が効果的で、出穂しからの散布は効果が劣る。

DPX水和剤は作用特性が接触型なので、散布の際は薬剤を十分に株にかける必要がある。

3) MDBA液剤散布は、使用期限が秋期刈取り後に限定されている。

第2表 エゾノギシギシ株数の変化 (単位：株/10m²)

| 区分 | 6/20 | 7/26 | 8/25 | 9/24 | 10/30 | 11/26 |
|-----------|------|------|------|------|-------|-------|
| DPX区 | 39.7 | 1.95 | 3.75 | 7.6 | 9.3 | 6.5 |
| DPX+MDBA区 | 57.6 | 2.3 | 5.2 | 8.2 | 9.7 | 0.2 |

第3表 枯死率の推移 (単位：%)

| 区分 | 6/20 | 7/26 | 8/25 | 9/24 | 10/30 | 11/26 |
|-----------|------|------|------|------|-------|-------|
| DPX区 | 100 | 95.0 | 91.0 | 81.0 | 77.0 | 84.0 |
| DPX+MDBA区 | 100 | 96.0 | 91.0 | 85.8 | 83.2 | 99.7 |

注) 枯死率は7/11調査に対する比率